

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 石峯 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、数学に関する調査)」、文部科学省が指定した日(4月14日から4月17日の間)に「教科(理科に関する調査)」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

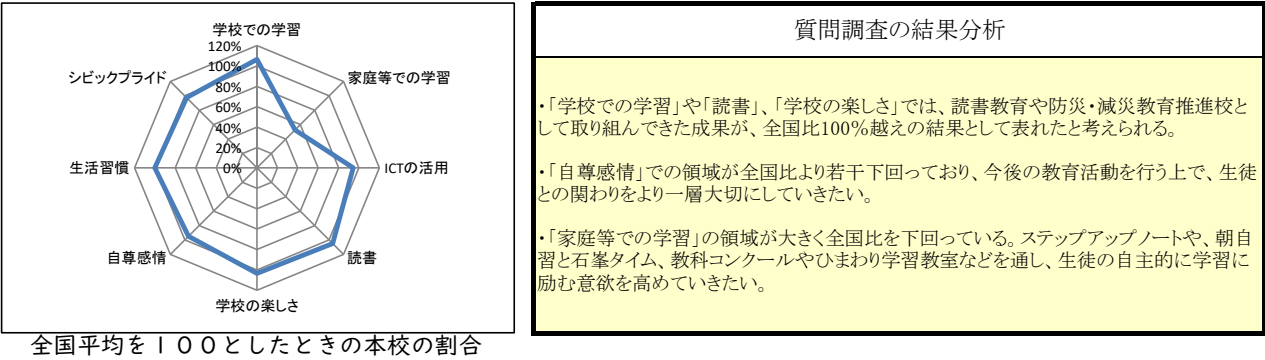
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「国語の授業の内容はよく分かる」という質問では、肯定的回答が20%ほど全国平均よりも高い。「思考・判断・表現」の「B書くこと」では平均正答率を上回っている問題があったが、「C読むこと」ではすべての設問において下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にする問題	下回っている
	努力が必要な問題	表現の効果について、根拠を明確にして考える問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数学の授業の内容はよく分かる」という質問では、肯定的回答が10%ほど全国平均よりも高い。グラフ・図形問題における視覚的判断力は全国平均に近い。数と式の領域での知識・技能のポイントが低く、計算能力に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	事象に対して、グラフから必要な情報を読み取る問題	下回っている
	努力が必要な問題	数量を文字で表す、式から基本的な情報を読み取る問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「理科の授業の内容はよく分かる」という質問では、肯定的回答が10%ほど全国平均よりも高い。すべての問題において正答率は全国平均を下回っているものの、「エネルギー」を柱とする領域の正答率は高い値となった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	身の安全を科学的な理論から考える問題	下回っている
	努力が必要な問題	記述で表現する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

どの教科においても、「授業中の内容は理解できる」と答える生徒は全国平均よりも10～20%ほど高い。今後は、定着・習熟を目指して、個に応じた指導や家庭での学習につながる取り組みを継続して行っていくことが重要である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

教科の学習コンクールの開催により、多くの生徒が一生懸命に取り組み、互いに教え合う姿も見られた。また、全校集会で表彰を行うなど、生徒の頑張りを認める場を設定した。この取組を継続するとともに、ステップアップノートを活用するよう啓発しながら、「やればできる」という意識を高め、家庭学習への意欲向上を図る。